

1週間ほど長崎に帰っており、今回の香港は福岡国際空港からの移動となった。

この日は幸い直行便、それでも飛行所要は4時間弱、活動拠点のマニラからであれば2時間弱と日本国内での移動感覚であり、実際に日帰り出張したこともある。

さて、その香港には7月18日の夕刻に到着。今回の宿泊ホテルは灣仔（ワンチャイ）地区で、香港島側のウォータ―フロント沿いに位置する場所であった。夕食を終え、寝るには早すぎる。

そこで蘭桂坊（ランカイフォン）に出かけてみることにした。灣仔（ワンチャイ）からは地下鉄で2駅目のセントラルで下車。掲示板の案内に沿って歩くこと10分。

途中、摩天楼のオフィス街を抜け緩やかな坂道を上り詰めると、この風景が広がる。

見てのとおりのバー街なのである。それもお客は圧倒的に欧米人である。

だから、なんとなく雰囲気があり、絵になり、それで、ここを訪れる観光客も多いということになる。

どこのアジアの街角にも、欧米人が多く集まり、独特の雰囲気を醸し出している場所がある。

マニラもしかり、シンガポール、バンコク、等々、しかし、ここはスケールがちがう。

つい最近まで英国植民地としての長い歴史がある。

通りには見渡す限り華やいだバーやカフェ、洒落たレストランであり、その中にお客がぎっしり詰まっている。

そして、みな実に楽しそう、身振りに手振りで、大きな笑い声も絶えない。

香港を代表するナイトスポットとして、香港観光ガイドブックには必ず掲載されている蘭桂坊（ランカイフォン）。

どれにでも「香港の六本木」と紹介してあるようだが、六本木を深く知らない私には比較のしようがない。

でも、隣に歩いていた日本のおねえさんたちが、ガイドブックをみながら指差す「ベッカム（選手）行きつけのレストラン」の嬌声には納得し、「あれがジャッキーチェーンのね、・・・」の会話にはしっかり聞き耳を立てていた。

